

令和6年度 第2回 中能登町立鹿島小学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和6年9月27日（金）15：00～16：05
【会 場】	中能登町立鹿島小学校 校長室
【出席者】	飯田 一則、池島 正芳、大湯 章吉、鍛冶 善正、清水 ひとみ 学校長 福井 清久（50音順） 学校代表者：井田 朋樹 教頭
【欠席者】	谷口 雅亮 生涯学習課：平岡
【事務局】	学校教育課：高木担当課長 生涯学習課：大野主査 山口
【次回予定】	未定

【進行】鹿島小学校：井田教頭

1. 開会あいさつ

《飯田会長》

本日は、お集まりいただき、ありがとうございます。少しずつ涼しさを感じられるようになってきて、やっと夏が過ぎてきたかなと感じる。日中はまだまだ暑さが残っているが、子どもたちは暑さに負けずに過ごしている。本日は、限られた時間の中で、実りのある協議をしたい。よろしくお願いします。

2. 令和6年度学校経営中間報告 ～清水学校長より資料を基に説明～

<意見等>

- 児童に対する「心のケア」を月1回実施されているが、全員対象なのか、それとも、子どもたちや保護者から申し出があって対応しているのか？
⇒毎月学校側で「震災に関するもの」「不審者に関するもの」など、テーマを絞り、対象を絞って実施している。
- 児童・保護者アンケートで、「いじめのない学校づくり」についての評価が87.7%とあるが、いじめがあるのか？
⇒暴力的ないじめはないと認識しているが、「嫌なことを言われた」という児童はいる。当事者同士と教員を交え、話し合いで解消できた。話し合いの後、繰り返し行っているということはない。
- 児童アンケートで、「授業がわかる」についての評価が85.3%とあるが、自身の教職者としての経験上でも、これだけ高いのはすごいこと。今後、数値が上下するとは思いますが、頑張って継続していただきたい。
⇒勉強が嫌になったら、学校が嫌いになり、それが不登校や渋りに繋がることもある。今後、子どもたちの「学びの保障」を大事にしていきたい。

3. 協議

①コミュニティ・スクール目標の進捗状況報告

- 第1回学校運営協議会で「PTCA活動でのニュースポーツ体験」の提案があり、2年生・4年生の活動で実施。

②『食育の推進』に向けた情報共有と活動などの企画・提案

- 子どもたちを見ていると、「○○だけ食べ」が多い。好きなものだけ食べて、お腹がいっぱいになっていると感じる。摂るべき栄養が摂れていないのではないかと？
⇒食生活は離乳食から始まるが、子どもたちが保育園に通園している時期から影響していく。母親が妊婦研修の時から食べ方を見直してみましようと思わせかける必要がある。
⇒どんな子どもたちに、どんなものを食べてもらうかというのが大事。
⇒子どもたちだけに伝えても変わらない。大人と子ども、どちらも一緒に働きかけていく必要がある。

- 2年生の生活科授業の中で、プランターを使った野菜づくりを実施しているようだが、嫌いな野菜をプランターで育ててみてはどうか？
⇒今年度は、子どもたちに自分で育てたい野菜を選んでもらった。自分で育てたものは苦手なものでもおいしく食べられる可能性がある。
- 給食はバランスを考えられている。鹿島小は給食の残食が少ない。
⇒学校から各家庭の食事を把握しきるのは難しいので、引き続き、給食をしっかり食べるように働きかけたい。
⇒仕事でお忙しい親御さんも多いので、食育改善推進委員さんなどに栄養バランスの取れた簡単レシピを紹介してもらうのも良いのではないかな。
⇒各家庭で、カロリー数などの目標を設定して、チャレンジしてもらってはどうか。
⇒食育についての学習は、学年によってアプローチを変える必要もある。
- いきなり何かを変えるのではなく、日常の小さなところからアプローチしていく必要がある。小さな学びが実生活に徐々に浸透していくのではないかな。
⇒まずは保護者に実態を知ってもらう必要がある。
- 参考資料の中に、中能登町の肥満度が50%以上の小学生の割合が年々増加の傾向とあるが、肥満度50%とは、どんな状況なのか？医学的に影響があるものなのか？
⇒将来的に生活習慣病になるリスクが高く、比較的早く来るという状況。令和2年度に数値が上昇しているが、コロナ禍で、運動不足だったことが響いているのではないかな。
- 今の時代、外食することが多い。外食しても良いが、バランス良く食べることが大事。
⇒小さいうちから食生活に気を配ることが重要。
- 学校として、子どもたちのために資料を配布するなど、色んなことを考えて、実施されているが、とても大変なこと。先生方には、小さなことでも子どもたちを褒めたり、言葉にしてあげるということを頑張ってもらえばいいのではないかな。
- 保護者は自分の子どもが保育園に通っている時から食育などに関する情報をもらっているのでは、お腹いっぱいという方も多いと聞く。保護者や学校に負担をかけずに、子どもたちも無意識に食育に関する学びを深める機会があれば良いのではないかな。
⇒親も子も参加してみんなで楽しめる会を企画したら苦手なものでも食べられるきっかけになるかもしれない。10・11月は芋煮のシーズン。11/30(土)に鹿島地区の子どもたちを集めて落語会をする予定だが、芋煮会も企画して実施してみたい。
⇒児童館に食育改善推進委員さんが入って、クッキング教室などをおやつ時間帯で実施している。お昼時間であれば、親御さんも昼食を準備せずに済むという意見もある。
- 冷凍食品の普及により、親は何も手をかけなくてもご飯ができる。食生活のバランスを考えている親御さんは少ないのではないかな。最後の砦が「給食」。学校からは引き続き、給食を通して働きかける。地域から「食育」に取り組んでもらえるのはすごくありがたい。
- 来年度のPTCA活動で、「食育」について企画してもらったり、学校生活の中で休み時間を利用して、運動習慣を見直して、取り組んでいけば良いのではないかな。

4. 閉会あいさつ

《池島副会長》

色々な貴重なご意見、ありがとうございました。皆さん、「私たちの地域の学校」という認識でいる。みんなで学校の力になっていきたい。今後とも、よろしくお願いします。